

TSUNAGU

～中学校区の特色を生かした小中一貫教育～

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や学校園の取組みなど、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を発信していきます。

新喜多中学校区 的特色ある取組み

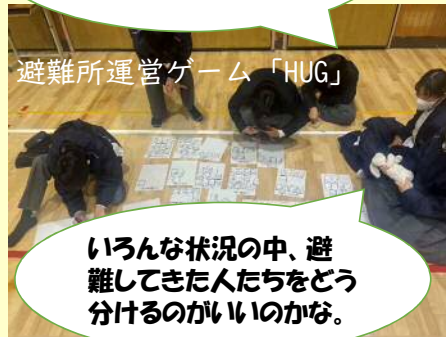
新喜多中学校区は新喜多中学校、藤戸小学校、西堤小学校の3校があり、「自ら学び、創造する子」の育成をめざしています。授業では「子どもの問いを引き出し、たんきゅうしんを高める授業づくり」を進めています。子ども一人ひとりの課題に対して試行錯誤しながら答えをさぐっていく姿や、自分なりの考えを持つまでの過程で学びを深めている姿などをめざしています。

子どもの問いを引き出し、たんきゅうしんを高める授業づくり

課題に対して前のめりになり、ワクワク感をもって学んでいる子どものキラキラした姿が各教科において、見られるようになりました。

夢TRY科 中2 夢TRY科のテーマ「防災」の授業では、HUG(避難所運営ゲーム)を行い、災害時の避難所の状況について、深く学びました。その後、「防災に対する考えを深め、災害時に中学生の自分が地域のためにできること」というテーマで一人ひとりが探究しました。

災害があったときは、食べ物や場所など、安心できることが大切だな。



避難所運営ゲーム「HUG」

いろいろな状況の中、避難してきた人たちをどう分けるのがいいのかな。

避難所の掃除など、中学生の自分にもできることはあるかな

〈中学生ができること〉
避難所で暮らしていると、避難所はどんどん汚れていきます。トイレ掃除は避難者自身に当番を割り振ると紹介しましたが、**中学生が自主的に取り組むことができる**だと思います。実際に、熊本地震では中学生が掃除や避難者への声かけなどボランティアとして参加していました。このように体力がある中学生が**床の雑巾がけ、拭き**などを行うことで避難所を清潔に保つことができます。

〈まとめ・感想〉
自分ができることを自主的にすることが大切。その場でできることを考え、行動したいと思いました。

〈学習後の生徒の感想〉

- ◆調べていると、今まで知らなかったことがたくさん分かりました。避難時は前もって想定していてもそれ以上のことがたくさん起こるのかなと思いました。
- ◆今回の友だちの発表を聞いて、新しい防災の視点を得ることができました。最近災害が多く起こっているので、家に帰ったら親ともう一度防災について話したいなと思いました。

生活科 小1



こんなくふうもあるんだ！知らなかったなあ。

生活科での「ふゆ見つけ」の授業では、子どもたちがそれぞれ考えたふゆのあそびなどをタブレットで共有し、あらたな気づきがありました。

社会科の授業で、世界の文化の違いについて調べてきたことをクラスで発表しています。発表の中から「他にもちがいはあるのかな」と新たな問いが生まれる子どももいました。

社会科 小4



どうして国によって違いがあるのだろう？

美術 中1



この発想は自分にはなかったな。こうすればもっとよくなるかも！！

美術の授業では、友だちの作品の工夫やアイデアを共有し、自分の作品と比べながら、「作品をよりよくするためにはどうすればいいか」考えました。

英語の授業では、外国の人に自分たちの学校生活を伝えるためにはどう表現すればより伝わるのかを考えながら、小6の前で実演していました。

英語 中3と小6



I will explain the life at Shigita Junior High School.